

## Track 7.

### 朝の雨

果てしなく広がる鉛色の空を眺め 窓ガラスにはほほを摺り寄せる  
何もしなくても構わないはずさ 誰にも咎められることはない

朝の雨よ 降り続けてくれ ここからはどうしても出られないんだから \*繰り返し  
すべてが夜の 帳に消えるまで 涙を隠していたいんだ

止まない雨もいいもんじゃないか たとえどんな世界でも生きてるなら  
つまらない欲さえ、捨ててしまえば もう少し幸せな気になれるかもね

\*繰り返し

打ち捨てられたのは 誰が悪いわけじゃない 自分でも分かっているつもりさ  
それでもやっぱり助けが欲しいんだ でもそれもきっと無茶な願いなんだろう

終わりのないつらさはいつも同じさ どうしても逃れることはできないんだ  
傘なんかなくても歩いていけるよ 濡れることさえ怖がらなければ

\*繰り返し